

洛友会会報

京都大学工学部電気系教室内

洛友会

〒606-8501

京都市左京区吉田本町

075-753-5270

www.rakuyukai.org

北海道支部の現状について

北海道支部長 木元伸一（平1年卒）



2年前の令和3年に澤井前支部長の後任として北海道支部長となりました木元と申します。北海道支部のみならずとも支部長は大先輩が担われるものと思っておりますが、私も卒業して北海道電力に就職し、こじんまりとした焼肉屋で初めて支部総会に出席して以来、気付けばこれまで30年以上北海道支部の諸先輩皆様にお世話になっており、微力ながら支部の皆さんの交流のお手伝いができればと考えております。

私は学部・修士とも板谷研究室

に所属しておりました。板谷研ではプラズマプロセス、プラズマシミュレーション、レーザー誘電、VDT視作業の目の疲れに関する研究など幅広い分野を研究テーマとされていましたが、私は八坂先生のご指導のもと核融合プラズマの電磁波による閉じ込めや加熱をテーマとしておりました。これは現在建設が進められているITER（国際核融合実験炉、フランス）で採用されているトカマク方式ではなく、直線型の磁場にプラズマを閉じ込めるミラー型の実験装置（HIEI、電気系教室の中庭の旧変電所内にあった）で研究をしておりました。話は少しそれますが、平成7年頃ITERの日本での建設候補地を決める際、北海道では苫小牧東部工業地帯（苫東）も話に上がり、電力系統規模が小さい北海道において大

きな負荷変動にどのように対応するかという社内検討に加わったことがあり、それが入社後唯一の研究テーマとの接点です。

現在は電力制度改革の発送電分離で3年前に誕生した北海道電力ネットワークに籍をおき、系統運用部門の仕事に携わっております。国を挙げてカーボンニュートラルを目指す中、北海道の電力需要を上回る洋上風力を始めとした再エネの導入が見込まれるため、これをHVDC（大容量直流送電）で需要規模が大きい本州系統へ送電する計画がありますが、事故時の系統への影響評価等を進めているところです。

北海道支部のこれまでと現状

北海道支部の歴史に関しては、支部長を務められていた芝山氏が以前本会報で記載されていますが、芝山氏が第5代支部長であり、芝山氏から辿ると私は第8代ということとなります。北海道支部設立は昭和29年（1954年）であり、7名の支部長で約70年間お世話いただき、支部長の在任期間は平均10年に及びます。特に第4代の池内氏は25年もの間、支部長を務められました。諸先輩に改めて敬意と感謝を表する次第です。

さて、支部の会員数は平成以降で見ると15名程度で推移しており

ます。毎年開催し、唯一の定例行事である支部総会の出席者は概ね8名前後であり、10名に届くことはまれです。このような人数構成ですので、総会は東京や関西支部総会のような大規模なものではなく、ホテルの小さな部屋あるいは飲食店の個室の一つの円卓や長テーブルで一同皆の顔が見える形で開催し、それぞれの近況を全員からお話いただけるのは小規模支部のメリットでしょう。残念ながらコロナ禍になってからは集合開催ができず、Zoomでの開催等としておりました。

私が最初に出席させていただいた際は、電気系の同窓会でありながら、薬卸業の社長、大学農学部教授、医師の方がいらつしやり、先輩の幅広い分野でのご活躍に少なからず衝撃を受けた記憶があります。

勤務先で見るとこれまで多かった北海道電力関係者に加え、最近では大学で教員、研究者をされている方が増えています。昭和60年卒前後の以降の会員を見ると、大学関係者が北海道電力関係者を上回っている状況であり、その方々は電気電子系ではなく情報系を専門とされており、こういった皆さんのおかげで小規模ながらも北海道支部が維持できている状況にあります。

最近新しく北海道支部に加わる会員がおりません。現状では平成16年卒が最も若く20年近く新しいメンバーが加わっておりません。新卒で北海道の企業を希望される方は勿論のこと、洛友会の皆様にはあまり機会は無いのかもしれませんが、単身赴任等で数年間でも北海道へ赴任される場合には、是非ご連絡いただきたいと思っています。先に書いたように、小規模でやっておりますので、東京支部や関西支部では総会等に出席されたことがなかった方も北海道支部では欠かさず出席された方もおります。現在、北海道在住で支部総会に参加されていない方を含め、重ねてご連絡をお待ちしております。

おわりに

この原稿を書いている2月下旬においては新型コロナウイルスの新規感染者数がかなり減少しており、これまではリモートで実施していた会議が集合開催が中心になり、会議の際に画面上で1対Nでしか話せませんでした。徐々に個人的関係を構築できるようになってきました。

この会報4月号が発行される頃には、マスクの着用が緩和され観光・旅行に足を延ばす方も増えていくはず。北海道だけではありま

せんが、観光業界のみならず、飲食業も打撃を受けてきましたので、夏休み等には北海道への旅行を是非ご検討いただければと思います。

北海道支部の支部総会もオンラインでの開催が続いていましたが、今年は4年ぶりに集合開催としたいと考えております。久しぶりに皆さんと京都の話を肴に酒を酌み交わすのが楽しみです。

教室だより

2022年度電気系

野球大会

本年度も例年と同様に野球大会を開催することができました。前年度と前々年度では、新型コロナウイルスの感染拡大のため1日限定の開催となっており、参加人数もそれほど多くありませんでしたが、本年度は3年ぶりとなるトーナメントでの野球大会の開催となり、多くの方に参加していただきました。3年ぶりのトーナメント形式ということで、参加するほとんどの方が経験もなく要領を得ない状態でのスタートとなりましたが、皆様のご協力と柔軟な対応により無事にトーナメントを終えることができました。

本大会では、野田研究室、引原研究室、小林研究室、木本研究室、和田研究室、白石研究室、竹内研究室、量子電磁研究室、萩原研究室、小嶋研究室、大村研究室、篠原研究室、山本研究室、大木研究室、伝送メディア研究室、原田研究室、松田研究室、石井研究室の計18の研究室に参加していただきました。参加人数が少なく、合同チームにする研究室も多くありましたが、本来一緒に活動することがない他研究室の学生と仲間になって野球をすることで、研究室同士の交流が深まったと思います。

本大会の順位は、1位が大木研究室、原田研究室、守倉研究室の合同チーム、2位が白石研究室、3位が同率で和田研究室と竹内研究室の合同チームと小林研究室となりました。2位の白石研究室には、来年度の野球大会の幹事を務めていただきますので、来年度の野球大会のさらなる盛り上げを期待しています。

最後に、本年度は大会に関係するすべての皆様のご理解、ご協力があったからこそ、開催まで至ることができました。ここに感謝を申し上げます。また、本年度も洛友会からのご支援を承りました。深く御礼申し上げます。

引原研究室 M1 金本公平記



第19回電気電子工学科

交流会の開催

本年度も電気電子工学科交流会が開催されましたのでご報告申し上げます。未だコロナ禍の影響が残っていたため、第19回電気電子交流会は2月17日(金)に過去2回同様オンラインにて開催されました。

本交流会は例年、研究室配属を控えた電気電子工学科3回生が教員の方々と親睦を深めるために企画、開催されており、その運営は

電気電子工学科4回生の6名の有志が中心になって行っておりま。本年度も、先生方および洛友会からの多大なご支援、ご協力のもと、学生と先生方との交流の場を設けるという目的を無事果たすことができました。

交流会は、Gatherを用いた会場にて学生が先生方の元でお話を伺うという形で進行させていただきました。開始直後、幾人の学生は緊張のした様子でどのブースにも入っていない状態が見られましたが、一度ブースに入ると先生方の気軽な語り口により、和やかな雰囲気の中で徐々に話を弾ませていきました。短い時間というこ

とで、学生から積極的に先生方に質問する姿も多く見られました。また、形式上交流会を終了した後もし一時間ほどGatherを開いたままにしていたため、学生と先生方との自由なコミュニケーションの場を用意できたかと思えます。参加した学生からは、様々な分野の先生方と話すことができ

て視野が広がったという声や、研究室生活や大学院卒業後の進路などに関しても先生方の経験談を交えて聞くことができてよかったという声など、多くの好評な感想をいただくことができました。

今年は、交流会の開催形式決定時に研究室紹介の開催形式が決

まっておらず、やむなくオンライン開催といたしました。が、研究室紹介が対面で行われ世間的にもコロナ禍は徐々に終わりを迎えています。確かにオンラインは便利なツールではございますが、やはり対面によって得られるものには及びません。来年の担当は自分ではないものの、コロナ禍以前と同じように対面で開催できるよう尽力したいと思います。

こうした会の開催に携われたことに幹事一同深く感謝しております。今後ともより多くの先生方と学生の交流を深める一助となるべく、来年度の開催に向けて後輩への引き継ぎを進めております。最後になりましたが、交流会にご参加あるいはご協力いただいたすべて

第19回電気電子工学科交流会

幹事代表 采山裕紀(令和5年卒)記

令和4年度卒業生の進学就職状況について（報告）

電気工学専攻長

土居 伸二

電子工学専攻長

木本 恒暢

通信情報システム専攻長

佐藤 高史

電気電子工学科長

松尾 哲司

令和4年度の電気系教室卒業生の進学就職状況についてご報告いたします。まず最初に、今年度の就職に際しましても洛友会会員諸兄諸姉より例年と変わらぬ多大なご支援を賜りました結果、就職希望学生の就職が無事に決定致しましたことに関して心から御礼申し上げます。

令和4年度の電気電子工学科（学部）ならびに工学研究科電気工学専攻、同電子工学専攻および情報学研究科通信情報システム専攻（以上修士）の進学・就職状況を表に示しました。

まず、工学研究科電気工学専攻・電子工学専攻の進路・就職に関しましては、7名が博士後期課程に進学し、56名が就職いたしました。産業界全般に亘って比較的景気が安定している状況を反映して、電気系教室に対して非常に多くの企

業から以前と変わらぬ学校推薦枠を頂戴し、最終的には、ほぼ100%の就職率を得ることができました。就職先は、昨年と同様に、電気・通信関連企業に加えて、自動車・機械メーカーや重工業関係企業の志望者が多い状況です。ただ、なぜか電力関係への学生の就職数が減少しました。本年も、学校推薦を希望する学生は多く、約6割の学生が学校推薦枠により就職しています。ただ、学校推薦とはいえ事前に企業側で、学生が希望する部署との整合性を検討する例も多く見られました。また、表1には記載しておりませんが、博士後期課程については約半数強が民間企業に就職、残りが大学の助教・博士研究員等に採用されており、博士後期課程学生の受け入れに関しても企業も積極的な間口を拡げてくださっている印象です。博士後期課程については、修士から5年一貫の連携教育プログラムを生かして、早期から博士の学位を目指した研究に没頭し、国内外の学会で活躍する学生が増えています。

情報学研究科通信情報システム専攻および電気電子工学科に関しまして、同様に多くの学校推薦枠を頂戴し、また見学会等OB・OGの方々の強力なご支援により、多くの学生が当初より希望す

令和4年度卒業生進学就職状況

工学研究科（電気工学、電子工学）、情報学研究科（通信情報システム）、電気電子工学科

修了、卒業生数	修士	学部	進 学・就 職 先
進学	7 4		京都大学工学研究科電気系専攻博士後期課程 京都大学情報学研究科通信情報システム専攻博士後期課程 62 京都大学工学研究科電気系専攻修士課程 25 京都大学情報学研究科通信情報システム専攻修士課程 7 京都大学情報学研究科知能情報学専攻修士課程 3 京都大学情報学研究科システム科学専攻修士課程 2 京都大学情報学研究科社会情報学専攻修士課程 5 京都大学エネルギー科学研究科エネルギー応用科学専攻修士課程 2 京都大学エネルギー科学研究科エネルギー基礎科学専攻修士課程 3 京都大学エネルギー科学研究科エネルギー社会・環境科学専攻修士課程 3 京都大学エネルギー科学研究科エネルギー変換科学専攻修士課程
		1	東京大学電気系専攻修士課程
		1	東京大学技術経営戦略学専攻修士課程
小計	11	114	
官公庁等	1	1	三重県、防衛装備庁
電気関連	33	3	アンリツ、島津製作所、シャープ、SCREENホールディングス、住友電気工業、京セラドキュメントソリューションズ、ソニー、ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング、キーエンス、キーサイト・テクノロジー、TSMCデザインテクノロジー・ジャパン、テルモ、日本電産、パナソニック、日立製作所、三菱電機、TSMCデザインテクノロジー
通信・情報・放送	18		KDDI、NTTドコモ、NTT研究所、NTTデータ、アマゾンジャパン、Yahoo、DeNA、中電シーティーアイ、JR東日本情報サービス、Indeed Japan、フリービット、セーフイー
電力・ガス	5		関西電力、東京電力ホールディングス
機械・自動車・鉄鋼	6		川崎重工業、デンソー、トヨタ自動車、豊田自動織機、日産自動車、日鉄エンジニアリング
運輸・鉄道	5		鉄道総合技術研究所、東海旅客鉄道、西日本旅客鉄道、東日本旅客鉄道、阪急阪神ホールディングス
化学・他製造業等	5		住友化学、日本ガイシ、日本信号、富士フイルム、ヤマハ
金融・商社等	6		三菱UFJ銀行
その他	12	4	サイボウズ、エリジオン、GMOグローバルデザイン、フィックスターズ、ミラクシアエッジテクノロジー、リクルート、unerry、野村総合研究所、三菱総合研究所、リオ・ホールディングス、自営業
小計	90	8	
研究生・帰国等	7	5	休学4名、未定8名
計	108	127	

る企業に就職しております。特に、学部卒で就職をする学生のために、推薦枠を修士と独立に設けていただいている企業もあり、大変ありがたいと思いました。内訳をみますと、専攻の専門性から少し距離のある、ソフトウェア、金融、サービスプロバイダ等の業種にチャレンジする学生も見受けられますが、通信インフラ関係の企業と総合電機メーカーへの就職が今年も多くなっています。また、自動車関連企業に就職する学生が一層増えている印象です。自動運転等を実現するためハードウェアとソフトウェアの両方を理解する素地のある学生が求められているものと考えております。さらに半導体関連企業へも、従来より数が減ってはいますが、一定数の学生が希望し就職を決めております。就職先分野にも産業界の状況が反映された形にはなっておりますが、卒業生はいずれも希望する企業に就職を決める事ができました。

以上、会員の皆様のご厚意とご配慮に心より感謝申し上げる次第でございます。

学位記授与式

令和5年3月24日、電気電子工学科の卒業生歓送会（洛友会との共催）が開催されました。みやこめつせにおける全学の卒業式に引き続き、電気総合館大講義室での学位記授与式が行われ、松尾哲司学科長より卒業生一人一人に対して学位記が手渡されました。

防止の為、立食パーティィは行わず、代わりに長尾真前洛友会会長の手「切磋琢磨」を入れた記念のマグカップが贈呈されました。名残惜しさのなか卒業生が巣立って行きました。



電気系修士学位授与式

令和5年3月24日（金）に大学院学位授与式がみやこメッセで、引き続き電気系修士学位授与式が4年ぶりに桂キャンパスで執り行われました。65名の方々が晴れて修士（工学）となりました。

電気工学専攻35名

青木勇磨、岩田俊亮、江田大輝、遠藤紘矢、大村剛史、葛西大浄、鎌田紘行、川崎皓介、越坂武仁、後藤芳隆、坂本一、佐藤豪洋、重政茉於、鈴木涉、高橋克弥、豊永雄郎、中田雅彦、南部康太、馬場達也、早川龍成、藤井俊輔、藤田寛和、堀拓真、間宮崇弘、丸毛雄貴、三浦廉、道谷優貴、宮崎健太、宮本雄太、森山翔太、山岸凌、山口駿、湯山太智、MAXINYI、敷田暁

電子工学専攻30名

石野航哉、井上真奈人、今村陽、今村真、梅本隆之介、大住知暉、大西康介、片桐光陽、神谷君斗、菊池瑛嗣、河野祐紀、合原岳、小林亮太、佐々木駿輔、清水智、十島雅弘、田中志樹、中村隆央、中村暖、二五和樹、福井崇人、福本直輝、藤井開、前草太郎、前田憲幸、松岡大雅、三上杏太、三橋凌太、吉田溪介、K A U R J A S L E E N



教員の異動

昇任

（令和4年4月1日付）

・電気工学専攻

阪本 卓也 教授（システム

創成論）

（令和4年12月1日付）

・エネルギー基礎科学専攻

石澤 明宏 教授（電磁エネルギー学）プラズマ核融合基

礎学

着任

（令和4年4月1日付）

・電気工学専攻

薄 良彦 准教授（先端電気システム論）

・知能情報学専攻

M a r c A. K a s t n e r 助教（コンピュータビジョン）

・エネルギー理工学研究所

稲垣 滋 教授（高温プラズマ物性）

（令和4年5月1日付）

・通信情報システム専攻

香田 優介 助教（デジタル通信）

（令和4年10月1日付）

・通信情報システム専攻

新津 葵一 教授（大規模集積回路）

水谷 圭一 准教授（ディジ

タル通信）

・システム科学専攻
島崎 秀昭 准教授（論理生命学）
・エネルギー理工学研究所
金 史良（高温プラズマ物性）

・生存圏研究所
大村 善治 教授（電波科学シミュレーション）
・エネルギー応用科学専攻
白井 康之 教授（プロセスエネルギー学）

転出

（令和4年6月30日付）

・電子工学専攻
金子 健太郎 講師（先進電子材料）立命館大学

（令和4年9月30日付）

・電子工学専攻
重松 英 助教（極微電子工学）ウェスタンデジタル

（令和5年3月31日付）

・電子工学専攻
高島 秀聡 助教（応用量子物性）千歳科学技術大学

・知能情報学専攻

黒橋 禎夫 教授（言語メディア）国立情報学研究所

・通信情報システム専攻

山本 高至 准教授（伝送メディア）京都工芸繊維大学

・システム科学専攻

東 広志 助教（論理生命学）大阪大学

退職

（令和5年3月31日付）

・電気工学専攻
和田 修己 教授（電磁回路工学）



会員寄稿

技術者人生50年と趣味

橋本 茂男

（昭和46年卒・東京支部）

4月で技術者生活50年、役員の方の依頼で、ご参考になればと書きました。好奇心は旺盛で、人のやらないことをやりたがる。生まれ育ちは京都で、桂高校を卒業。

〔大学時代と趣味〕

自宅を離れたかったから、クラブは1年間に9ヶ月の合宿があるボート部に入った。早朝石山の合宿所でボートを漕いで大学へ、授業を切上げ日没までまたボート。2年の前期試験直前に学園紛争で全学ストライキ。その間人文社会系の読書。1年後に封鎖解除され、教養の単位を取得。引き続き専門の講義が始まりまじめに勉強、卒論は板谷研で実験物理の炭酸ガスレーザを研究。夏休みに仲間のお誘いで信州の院入試対策合宿、専門の勉強に集中できた。おかげで大学院では育英会の奨学金も頂けた。憧れの下宿生活、配属も希望の人工知能・坂井研。長尾真助教授（後の総長）の直接ご指導で、画像パターン認識の研究三昧。夏休みには芹生の演習林で長尾先生、博士課程の先輩や同期生で自炊ゼミをアレンジ。M2の夏、仲間を募り就職担当教授に依頼し、関東の各工場や研究所を歴訪。出発前は研究所希望だったが、自分は物を動かす工場向きと考えなおし、技術者の道を選んだ。日本各地をユースホステルの予約なし旅行、ヒッチハイクは東名高速のトラックを乗継ぎ東京までも。初の海外旅行は夜行と船で韓国へ。勉強した韓国語でバスや安宿を現地で探し、慶州、石窟庵、雪岳山、ソウルなど。

〔技術者時代と趣味〕

73年に日立製作所入社、大みか工場計算制御ソフト設計部火力原子力グループに配属。入社2年で徳島の新設火力発電所現地の計算制御起動試験を、朝から晩まで一人で9ヶ月担当。ご褒美に顧客から土佐の保養所にご招待頂いた。その後原子力発電で技提先の米国GE社に半年派遣。日本人駐在員は、皆同じアパート暮らし。好奇心の強い私はGE社に要請し、同社員の持家に他の社員とルームシェア生活、夕食は皆と交代で作り一緒に食べた。会社も家も、休日も英語漬け、日本での辞書による英語「教育」は会話では役に立たず。楽器や運動の習得と同じと捉え、自分で「訓練」すると会話が通じ始めた。同居人たちとその仲間でヨセミテ国立公園にバックパッキング。グランドキャニオン、ナイアガラ、ラスベガス、バンフやエバグレーズ国立公園他も旅行した。

米国TMI原発事故対応の原子力発電プラント診断ガイド予測技術の開発で、日本電機工業会の会長特別賞を受賞。会社初の原子力発電運転訓練シミュレータ事業にも進出し、立て続けに各社に納入。主任技師頃から部長になると組織も絡み、技術とマネジメントが仕事の両輪、共通性も感じた。製品

を納入して顧客の喜びを工場に伝え、苦労した仲間も喜んでくれ技術者冥利。日立はゴルフが盛んで、会社では猛打賞の常連だが、まぐれでホールインワン。しかし上げれば123打だった。家族でオーストラリア旅行も。兄の影響でラジオ少年、送受信機を自作して中学で海外とも交信したアマチュア無線を再開、電信を中心に百数十カントリーの交信証を集めた。

工場から事業部に移り、制御システムの拡販に従事後、北京の現地法人に総経理として赴任。製品の顧客は日本だけでなくすべて中国。米国での経験から中国語も訓練により会話は成立、従業員や顧客との距離を縮めた。連休が取れる都度、家族と私的にシルクロードのトルファン・敦煌・西安、黄山、桂林、フホトへ。中国の世界遺産は20箇所を旅行。北京は世界の芸術家も来演、小澤征爾指揮、浅利慶太演出、森英恵衣装の蝶々夫人を鑑賞後、3人にサインも頂けた。王立シエークスピアカンパニー、ポリシヨイバレー他も観た。57歳で兵庫県の新明和工業へ転職のお話、喜んで赴任。お仕事はプラント制御のベテランから、情報システム（事務合理化）の素人に。勉強も趣味で、何を如何に勉強するか考えた。経産省が国家試

験として、情報処理技術者のカリキュラムを職種ごとに規定している。丁度J-SOX法による内部統制の監査が義務化され、会社のIT纏めを拝命した。システム監査技術者試験(合格率約1割)を一年勉強し、一発で取得。任期満了後も仕事を続けるため、実務経験を重ねながら同・プロマネや文科省の技術士(情報)資格も取得した。

63歳で任期満了、家族の応援もあり日立市で技術士事務所を開設。茨城では他の技術士も顧客は少ない。商売拡張のため東京で営業、ミドリ安全(株)から「情報システム部長に來ないか、借上げマンションも提供する」と結構なお誘い、家内と引越した。既存システムの全面刷新が決定したのでITストラテジスト試験も70歳の最高齢(平均40歳)で合格した。技術とは? 学生の頃知った「生産的実践における客観的法則性の意識的適用」は本質を突き至言。法則とその適用を自分で考え工夫するのが技術者の腕の見せ所、名案なら特許にする。なお技能は主観的、に変わり、科学は認識概念。

〔手作りの趣味〕

趣味は手作りのほうが面白い。新婚旅行は北海道で初日のみ予約以降の行先はその場で決めた。民宿客お勧めの水芭蕉が一面に咲く池は、観光客が誰もいず二人で感動。海外旅行もツアーではなく、家内と行きたい所に手作り。パムツカレも石灰棚のすぐ隣にある、本物のローマ遺跡の温泉プールは他に類を見ない。マチュピチュも約1時間のワイナビチュ山頂から見ると、まさに天空都市。教会やモスクはミサ中の拝観が印象に残る。中学からの趣味クラシック音楽も、旅行先のウィーン歌劇場で小澤征爾のワグナーを聞いた。屋根の上のバイオリン引きや、オペラ座の怪人は東京ブロードウェイで聞き比べ。無関心だった美術もブラドで本物に感動し、エルミタージュ、Met、ナショナルギャラリー、ウィーン美術史などへも。数年前に世界遺産は百数十カ所訪問、未踏の大陸は南極だけ。ダイビングも57歳で始め、家内と沖縄やモルディブ他で潜った。休日は家内と社交ダンス、始めた動機は船旅で楽しむため。クイーンエリザベス、飛鳥II、イタリアやノルウェーのクルーズも楽しんだ。コロナ以降、旅行は国内で我慢し、昨年は十数か所に。子供達や孫達と遊ぶのは、また格別だ。

〔振り返って〕

しんどかったことは忘れ、楽しかったことは記憶に残る。ターニングポイントでは事前に自分で考えて行動した方が、納得しやすい。これまでに巡り合い、お世話になった皆様方に感謝申し上げます。そして家内にも。



ワイナビチュ山頂から見たマチュピチュ遺跡は、まさに天空都市。2011年



パムツカレ温泉。有名な石灰棚の隣、下はローマ遺跡の柱。2008年

自分の病気との向き合い方

富永 直樹

(平28年卒・中部支部)



昨年、人間ドックを受診した際に医師から「年齢と体重の割に血糖値が高すぎるので、精密検査を受けてほしい」と言われました。そこで病院にて血液検査を受け直したところ、1型糖尿病であることがわかりました。この病気はいわゆる生活習慣病として知られる2型糖尿病とは異なり、自身の体何らかの原因でインスリンという血糖値を下げるホルモンが分泌されなくなるために血糖値が異常に上昇し様々な症状を引き起こす病気です。

この病気が発覚したとき、私は原因が分かっている意味でホッとしました。というのも、特に間食や清涼飲料水を摂る習慣がなく体重も特に増加していなかったにも関わらず、健康診断では毎年のように血糖値が高いことを指摘され、医者「食生活を改善しろ」

と言われてもどうしたら良いのか分からなかったからです。

インスリンは生命維持に必要な不可欠のホルモンであるため、1型糖尿病の治療は基本的にインスリン治療と呼ばれる、注射等で外部からインスリンを投与する治療になります。そしてインスリン治療は一度始めると永久に続ける必要があります。私自身もしょうがないかな、と腹をくくっていたのですが、私の場合は緩徐進行型と呼ばれるインスリン分泌の減少が比較的緩やかなタイプであり、計測し直した血糖値も直ちに治療が必要なほど高くなかったことからすぐにインスリン治療を開始するわけではなくしばらく様子見する、ということになりました。インスリン治療がまだ必要ないということにひとまず安心しつつも、逆にいつインスリン分泌が枯渇して体調が悪化するかわからないという不安がつきまとうことになりました。

とはいえ、病気だからとずっと閉じこもってれば気が減入ってしまいますし、一方病気に対して自分ができることは現状ほとんどありません。そのため、ひとまず病気のことは置いておいて、治療が必要になるまで好きなことをやる、と考えました。インスリン治療を始めると、食事の度に必要

なインスリン量を見積もって自分で注射する必要があるため、今まで通りの食事は簡単にはできなくなるだろうと思いました。私自身お酒が好きでビールだけでなく日本酒、ワイン、焼酎、ウイスキー等種類選ばず飲んでおり、以前からコロナ禍にも関わらず感染者の少ない時期を見計らって一人でた

まに飲みに出ていましたが、病気が発覚してから体調を考慮しながらも可能な限り飲みに行くようになってしまいました。本当は辞めるべきなのでしょうけれど・・・。最近クラフトビールのブルワリーやビアバーが増えたこともあり、新しくできたブルワリーやビアバーがあると行ってしまいます。初めてクラフトビールを飲んだのは国際会議でアメリカに行ったときでした。その際に現地のブリューパブでIPAと呼ばれるビールを飲み、日本のビールにはない香りと味に魅了されましたが、日本にはないものだと思っておろしぱく忘れたままでした。数年前、日本でもそんなビールが作られていると知ってからはよく飲むようになりました。たまにはずれもあります。とても美味いもの、好みのものに出会うこともあり、それもまた楽しいと思える一面かもしれません。他にも、就職してから購入した

ロードバイクに1日中乗り続けて名古屋から長野まで200kmの距離を走ったり、船に乗って釣りに行ったりと、あらゆる方面でアクティブになりました。後は、仕事の合間を縫って旅行もしたいと思っています。逆に病気が発覚しなければずっと怠惰な生活を送っていたかもしれません。

さて、私が考える1型糖尿病患者の最も大きな制約は、食事の際のインスリン注射になるのかな、と考えています。先程インスリンの量を見積もって注射すると述べましたが、注射するインスリンの量は食べ物に含まれる炭水化物の量から見積もる必要があるのです。注射するインスリンの量が少なくないと高血糖になりますし、多すぎると低血糖になってしまい、こちらの場合ほとんど危険で意識がなくなることもあります。これから治療になるだろう立場からすると、そんな事よくできるな、慣れるまですごく時間がかかりそうだなと思っています。一方で、血糖値は測定ができる、すなわちセンサーは既にあるので、うまくやれば血糖値を持続的に測定してインスリン量を計算し自動投与する装置が作れるはずなのです。もちろん相手が人体であるため体調の変化に合わせて必要があるだけでなく、摂取する炭水化物の量によっ

て最適な投与量が大幅に変化するので、そう簡単に作ることができなわけではないと思います。・・・。ただ、ネットで検索してみるとそのような研究開発を行っているところはいくつもあるのです。実用化されるのを期待したいです。

近況報告としては暗い話題になってしまいましたが、私自身は今のところ特に自覚症状もなく、本当に病気なのか？と疑問に思えるくらい元気な状態です。一方で体重も徐々に減少しているなど、病気の影響なのだろうと思える部分もあります。不安はもちろんありますが、今後もなんとかなる、なんとかする、くらいの気持ちで前向きに生きていたいと思います。



同窓会だより

京大電気系昭和49年卒

同期会について

同期会京都合会は12月3日(土)に開催され、花山天文台見学には16名、がんこ高瀬川二条苑での懇親会には13名が参加しました。久しぶりの再会を喜ぶとともに、晴天に恵まれたおかげで、將軍塚青龍院大舞台からの展望や太陽スペクトルの観察を楽しむことができ、柴田一也先生の最新の太陽に関するお話や、見学中に発生した太陽フレアの観測データを見るチャンスもありました。懇親会では、日本料理と差し入れの日本酒を味わい、近況報告集に含まれな



花山天文台玄関にて

かった近況報告等で楽しいひとときを過ごしました。

同期会東京合会は12月9日(金)に開催され、雅叙園百段階段見学には9名、おさかなや魚魚権での懇親会には10名が参加しました。3年振りの再会を楽しむとともに、百段階段では詳しい説明も相まって昭和初期の栄華を感じ、懇親会では新鮮な食材とさまざまなワインなどを味わいつつ、会話に盛り上がりました。



目黒雅叙園にて

今後の予定としては、今年夏に延期を重ねている高野山合会、秋に東京合会、来年には卒業50周年合会を京都で開催する方向で検討しています。

世話人・・・高岡義寛、西 亨、成宮憲一、福山 淳

支部だより

九州支部昼食会報告

九州支部では支部総会の他に昼食会・夕食会等の会合を実施しておりますが、その活動の一環として令和5年1月28日(土) 12時より、福岡市博多区の八仙閣本店にて、定例の昼食会を開催しました。今回の会合では、対面参加とリモート参加のハイブリッド方式で開催しました。



当日は対面で8名、リモートで3名の合計11名ご参加をいただきました。昼食会の開始前に、参加者一同で昨年11月にご逝去された上田保之先輩(昭27年卒)へ黙祷を捧げました。上田先輩は支部定例の行事にはほぼ全てご出席され、これまで四十年以上もの間、

当支部の発展や活性化に多大なご貢献をいただきました。

リモート参加の工藤幹事(昭62年卒)司会のもと昼食会が開始され、能見支部長(昭54年卒)より、乾杯のご発声をいただきました。



その後、リモート参加の方々も交えて歓談を行い、上田先輩の思い出話に花が咲きました。また、話題は数十年前の大型コンピュータからキーボードの配置、認知症予防まで多岐にわたり、終始和やかな雰囲気では進みました。コロナ禍で途切れた他会合がそのまま立ち消えになっているとお話もあり、当支部会合を継続することが非常に重要で意義あるとの声を多くの方からいただきました。楽しい時間はあっという間に過ぎ、予定の時間を迎えお開きとなりました。最後は、リモート参加の工藤幹事に締めのご挨拶をしていただきました。



今回は、東京や熊本からもリモートでご参加いただきました。リモート開催については課題も見つかったため、次回の開催に向けて改善していきたいと考えています。今後は、遠隔地でなかなか参加できない方にも積極的に案内を行い、これからも九州支部の活性化を図っていきます。

田中 仁志(平22年卒) 記

計報

昭23	神 尚通	5・2・18
昭27	上田 保之	4・11
昭28	岩 弘三	5・2・3
昭34	井上 幸美	4・9・8
昭35	両部 達夫	3・4・5
昭41	永井 正志	4・11・25
昭41	増井 久之	4・8・19

以上の方々がご逝去なさいました。謹んで哀悼の意を表します。

CUE 49号 発行のお知らせ

cue(電気関係教室技術情報誌) 49号が発行されました。目次は以下の通りです。冊子の配布はありませんので、HPよりダウンロードしてご覧下さい。

<http://www.s-eet.kyoto-u.ac.jp/ja/information/cue/>

巻頭言

上田 哲三
「ワイドギャップ半導体の進化を振り返って」

大学の研究・動向

半導体物性工学分野
「極限エレクトロニクスを目指した半導体の革新と基礎学理」

産業界の技術動向

岡嶋 達也
「東海道新幹線を支える技術の歩みとたゆまぬ進化への道筋」

新設研究室紹介

研究室紹介

博士論文概要

高校生のページ

石井 信
「人工知能技術に基づく人間(脳)の情報処理の解明」

学生の声

Weizheng Fu
大島 國弘

教室通信

佐藤 高史
「電気電子工学科の入試について」

賛助会員の声

服部 光高
「カーボンニュートラルの時代に向けた次世代自動車開発へ貢献する鉄鋼製造」

編集後記